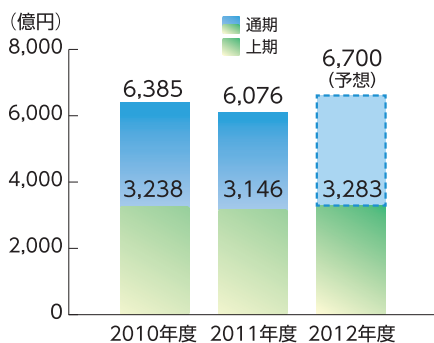


第148期 第2四半期のご報告

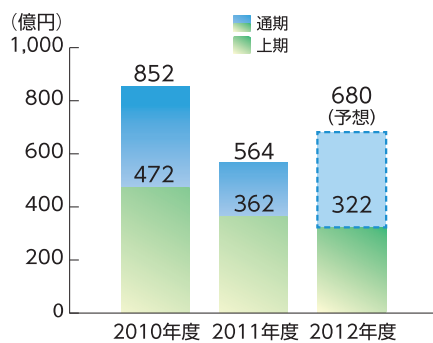
2012年4月1日～2012年9月30日

業績ハイライト

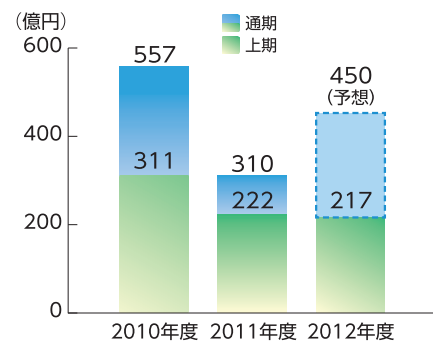
売上高



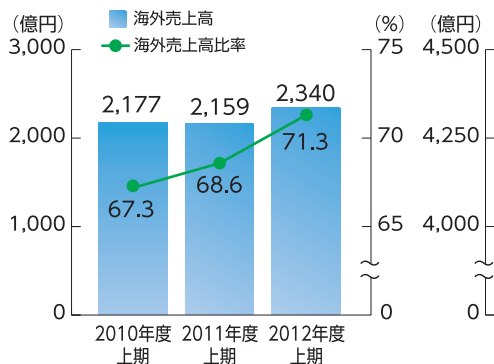
営業利益



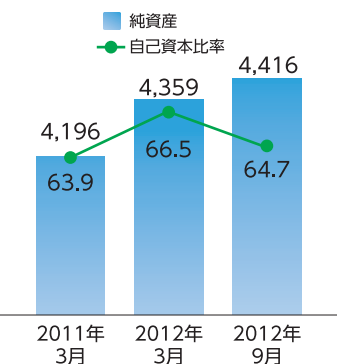
当期純利益



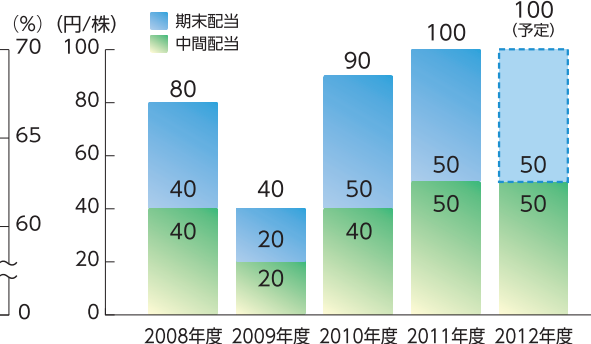
海外売上高 / 海外売上高比率



純資産・自己資本比率



1株あたり配当金



ポイント

- 1) 上期は、スマートフォンやタブレットPC向けに光学フィルムやインダストリアルテープの売上が拡大しました。一方、パソコン需要が低迷したため、ハードディスクドライブ向けプリント回路などが影響を受けました。
- 2) 下期は、パソコン市場の冷え込みが続くこと、中国における日本製品の不買運動による自動車や家電市場減速の影響をスマートフォンやタブレットPCの普及に伴う需要拡大を取り込むことで補う計画です。為替レートは1米ドル80円を前提としています。
- 3) 中間配当は1株あたり50円、年間では前期と同額の100円を予定しています。



2012年度は「克つ年」 前向きな改革のもと市場で勝ち、競合に勝ち、 そして自らに「克つ年」と位置付けています。

株主のみなさまには、日ごろから格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。
2012年度前半の概況と今後の経営の方向性についてご報告申し上げます。

取締役社長 柳楽 幸雄

2012年度について

2012年度前半は、円高の定着に加えて欧州債務問題の長期化によりこれまで世界経済を牽引してきた中国の景気に減速感が感じられるようになりました。加えて、米国でも景気回復が緩慢なものにとどまるなど、世界経済は閉塞感が強まりました。

日東電工は、このような厳しい外部環境に打ち克つため市場拡大しているスマートフォンやタブレットPCに対し、中小型液晶

パネル用光学フィルムや粘着テープ、またタッチパネル用透明導電性フィルムなど優位性ある製品を積極的に拡販することに注力しました。2012年度後半はこれを継続しながら、日東電工の基幹事業であるテープ事業をグローバルに強化することで持続的な成長を可能にする土台を築いてまいります。

変化するところにすばやく対応する

今、世界は政治、経済、技術などあらゆる分野において変化するスピードが早く、かつ変化の内容も複雑化し、先を見通すには不確実な要素が多くなっています。このような時こそ変化に対し、恐れずにチャレンジすることが大切であると考えています。

液晶パネル用光学フィルムは、「情報の出口(出力)」を支える、なくてはならない製品として液晶テレビなどの市場拡大に貢献してきました。しかし、この1~2年間でスマートフォンやタブレットPCの市場が大きく成長し、液晶パネルとともに、そこに搭載されるタッチパネルが注目を集めています。タッチパネルは「情報の入口(入力)」の肝となりますが、今まさに技術革新の最中にあります。日東電工は、タッチパネルをより軽く、薄く、そして電

池寿命を長くすることを可能にする製品群を有します。数少ない成長市場のため競争は熾烈を極めますが果敢に設備投資や材料・技術開発をすすめ、液晶パネルの時と同様、タッチパネル市場拡大の一翼を担う体制を整えてまいります。

テープ事業では新興国を中心とした戦略を進展させており、成長への胎動が感じられます。具体的には、トルコでナンバーワンのテープメーカーを買収し、インドでは加工機能を拡大すべく新工場の整備に着手しています。さらに、ブラジルに自動車用テープ新工場を建設決定するなど事業の拡大・育成に最適と思われる戦略をグローバルに推進しています。

グローバル化のセカンドステージへ

日東電工は今から半世紀前の1961年にはアメリカに駐在員事務所を開設し、1969年には台湾に初めての海外工場を設立するなど、早くから海外進出し、日本を起点としたグローバル化を進めてきました。

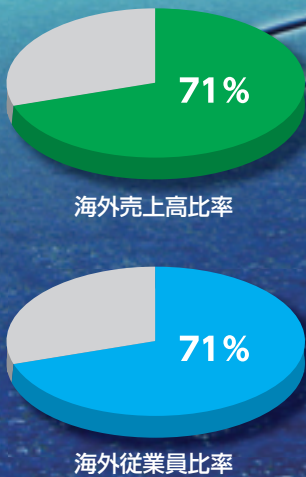
その結果として海外売上比率(71%)や海外拠点の従業員数(22,815名で71%)などは高まっています(数値は、いずれも2012年9月末時点)。「グローバル化のセカンドステージ」においては、国籍や性別を問わず日東電工のDNAを持つ「Nitto Person」が世界中にある拠点で経営を担うことをめざしています。そのために会社の組織や制度の改革を進めています。中で

も経営幹部の育成を目的として、2000年に開設した日東ユニバーシティを2011年からグローバルビジネスアカデミーへ改編して、一層質の高い教育プログラムを構築し、運用を開始しています。将来的にはその中からグループ経営を担う「Nitto Person」が現れることを期待しています。

日東電工は2018年に創立100周年を迎えますが、持続的に成長し続ける企業をめざします。株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

グローバル化のセカンドステージ

日東電工はかねてから海外への事業展開に注力してきましたが、その主体は日本で生産したものを輸出する、日本を起点としたグローバル化でした。近年は特に新興国市場への拡大を進め、現地のニーズを現地で見つけ、現地で生産し、世界へ展開するというスタイルをめざしています。そのために、世界4極にR&D拠点を設立し、研究開発から現地にて行う体制を整えています。



2012年9月末現在

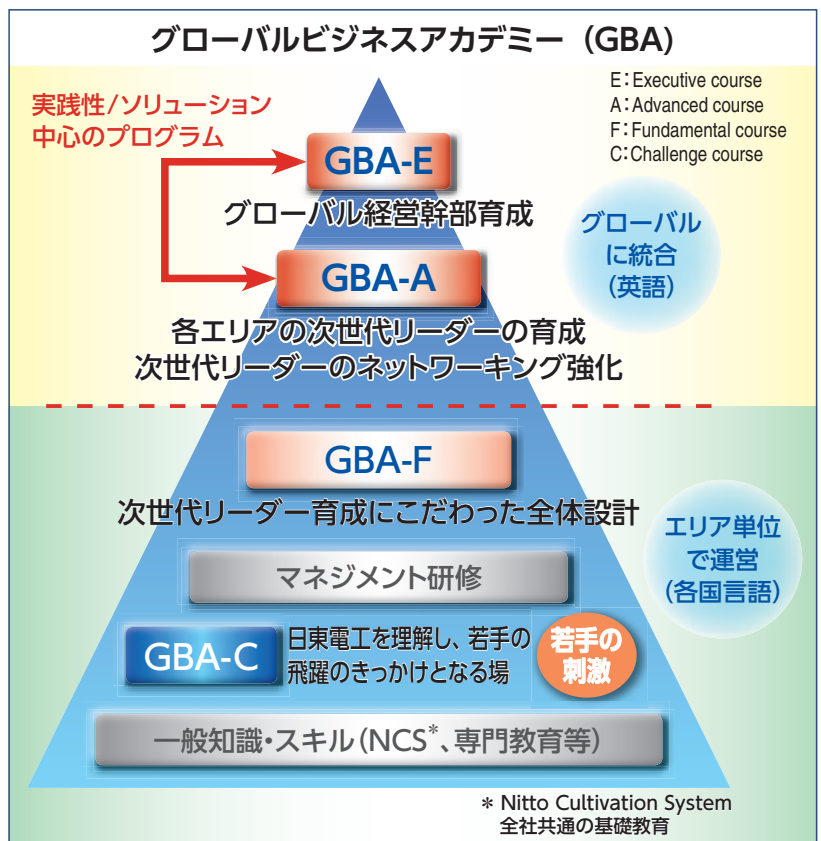
グローバル化を支える人財育成

このグローバル化のセカンドステージの事業展開を支えていくには、事業遂行能力のみならず、日東電工の企業文化・DNAを持った人財が必要です。

日東電工グループでは、これまで選抜教育「日東ユニバーシティ」で、次世代のビジネスリーダーを早期に発掘し計画的に育成するよう努めてきましたが、さらに変化に機敏に対応できるグローバルリーダーの育成の必要性が高まっています。

そこで選抜教育のプログラムを大幅に改編し「グローバルビジネスアカデミー」(GBA)を発足させました。GBA-E(エグゼクティブコース)とGBA-A(アドバンスコース)では、日本人と日本人以外を分けることなく、受講者は国籍や性別を問わず、一緒になって経営課題への解決提案を行います。

「グローバルビジネスアカデミー」を通じ、各エリアに日東電工の文化を身につけ、自ら考え、行動する多くの「Nitto Person」を育成していきます。



財務・株式情報

連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

	前期末 (2012.3.31現在)	当第2四半期末 (2012.9.30現在)
流動資産	4,229	4,383
固定資産	2,289	2,405
流動負債	1,384	1,591
固定負債	774	780
純資産	4,359	4,416
総資産	6,519	6,788

ポイント解説

流動資産が前期末に比べ153億円増加しました。売上高の増加に伴う受取手形・売掛金の増加(237億円)や在庫・原材料等の増加(37億円)などが主なものです。

連結損益計算書(要旨)

(単位：億円)

	前第2四半期(累計) (2011.4.1~2011.9.30)	当第2四半期(累計) (2012.4.1~2012.9.30)
売上高	3,146	3,283
売上原価	2,232	2,364
売上総利益	914	919
販売費及び一般管理費	551	596
営業利益	362	322
経常利益	366	312
四半期純利益	222	217

ポイント解説

流動負債が前期末に比べ206億円増加しました。原材料等を仕入れる際に発生する支払手形・買掛金の増加(132億円)や未払法人税等の増加(57億円)などが主なものです。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

	前第2四半期(累計) (2011.4.1~2011.9.30)	当第2四半期(累計) (2012.4.1~2012.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	301	295
投資活動によるキャッシュ・フロー	△195	△314
財務活動によるキャッシュ・フロー	△79	△76
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,457	1,336

ポイント解説

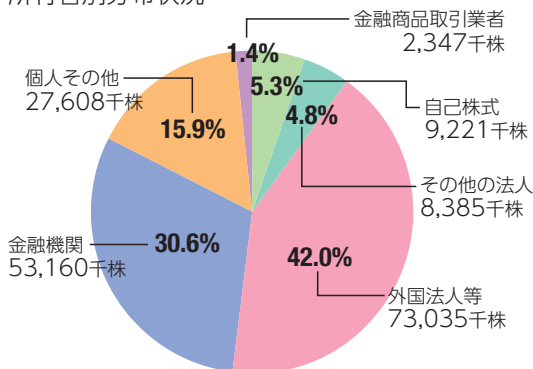
投資活動におけるキャッシュ・フロー支出が前年同期に比べ118億円増加しました。トルコのテープメーカーであるベント社を買収したことによる支出(77億円)などが主なものです。

◆ 株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行済株式の総数 173,758千株

株主数 59,048名

所有者別分布状況



◆ 株主メモ

証券コード 6988(業種:化学)

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

剰余金の配当受領株主確定日 3月31日(期末配当)、9月30日(中間配当)

定時株主総会 6月

単元株式数 100株

上場金融商品取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

電話:0120-094-777(通話料無料)

※株式に関するお手続きについては、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.nitto.co.jp/ir/admin/index.html>



日東電工株式会社

〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービス OSAKA

